

雄武町国民健康保険病院 経営強化プラン(令和6年度～令和9年度) 概要版

1 経営強化プランの策定にあたって

- 経営強化プランは、持続可能な地域医療提供体制を確保・維持するために、**限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用**する視点を最も重視し、新興感染症の感染拡大等の対応という視点も持って病院経営を強化していくために策定。
- 経営強化プランは、地域の医療水準の向上に向けて、遠紋圏域地域医療構想調整会議において共有するとともに、各医療機関と役割分担・連携を図りながら運営に取り組む。
- 計画期間は、令和6年度から令和9年度までの4年間。

3 役割・機能の最適化と連携の強化

(1) 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

- 雄武町全体では、概ね50人/日程度の入院患者が発生すると推計されるため、**当院の病床数は現状の25床を維持**。
- 今後の病床機能は、下記の観点から、令和8年度に**全床(25床)を地域包括ケア病棟へ転換することについての検討を進める**。
 - ・ 軽症急性期を含む回復期・慢性期病床が不足すること。
 - ・ 増加が見込まれる高齢者の救急医療や在宅医療を担うこと。
 - ・ 急性期病棟と比較して採算性に優れている傾向にあること。
- 外来医療は、雄武町全体では、概ね240人/日の外来患者が発生すると推計されるため、現状の外来規模は維持。
- 高齢化に伴い複数の慢性疾患を有する患者が見込まれるため、**当院の外来機能は、現状の診療科に加え、可能であれば総合診療科医を確保し、地域のかかりつけ医機能を果たすことを目指す**。
- 当院は、**軽症の急性期医療、一次～二次救急医療、回復期～在宅医療**を中心に担うことの検討を進める。

2 雄武町国民健康保険病院の現状と課題

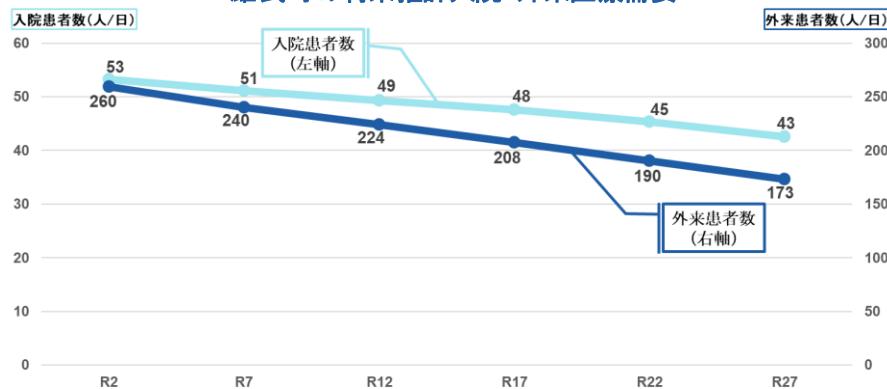
基本的な役割

- 町内唯一の公立病院として**24時間365日の救急受入体制**を確保。
- 高齢社会に向けて、**地域包括ケア体制の中核**を担い、地域包括支援センター、介護施設と連携して、**在宅医療や介護療養**へ貢献。
- 遠紋保健医療圏の数少ない**透析施設**として透析医療に貢献。

課題

- 遠紋保健医療圏では、病床の担い手が徐々に減少しており、特に**回復期・慢性期病床が不足**。
- 生産人口の減少に伴い**医療従事者の確保が困難**。
- 地域の**医療需要に適合した病床機能**の検討。
- **一般会計繰入金**を可能な限り適正化。

雄武町の将来推計入院・外来医療需要



※ 将来推計入院・外来患者数は平成29年度全国の傷病分類別受療率×雄武町の将来推計人口により算出。受療率には病院・診療所の患者を含む。平均在院日数は現状のまま推移すると仮定している。
出所：厚生労働省 患者調査、国立社会保障人口問題研究所 人口推計資料等をもとに作成

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

- 「オホーツク西紋医療ケアネットワーク」内での紹介・逆紹介の推進、人事交流、事務用品や診療材料の共同購買等を推進。

4 医師・看護師等の確保と働き方改革

(1) 医師・看護師等の確保

- 医師については、大学医局からの派遣や民間紹介会社の活用等により人材確保を図っていくとともに、**他職種とのタスク・シフト、タスク・シェアを積極的に実施**し、医師の負担軽減を図る。
- 看護師や療法士、社会福祉士については、**ハローワークや民間業者等の活用に加えて、学校訪問や就職説明会の強化**等により人材確保を目指す。

また、教育・研修体制を充実し、働きやすい環境整備を進めるなど、職員の定着を図っていく。

- 事務職員についても、病院経営を支えていく人材の確保・育成を目指し、**医事業務や診療統計に詳しい専門人材を登用すること、事務長については専任職員とすること**等の方策を検討。

(2) 医師の働き方改革への対応

- 年間の時間外・休日労働(以下、「**超過勤務**」という)が960時間を超える医師はいないため、**全医師について年間の超過勤務が960時間以内のA水準とする**。

6 施設・設備の最適化

- 現在地への移転新築から20年余りが経過。引き続き、長期的な視点を持って、建物設備の点検・修繕等を適正に行うことで整備費の抑制を図ること、病院施設における長寿命化計画の策定を推進・実行することで、**各事業年度における経費の平準化**を図る。
- デジタル化への対応については、電子カルテは導入済だが、課題もあることから、次期更新時に向けて課題解消に努めるとともに、**働き方改革への対応や患者の利便性向上の観点から、今後はより前向きに検討**していく。

7 経営の効率化等の指標・目標値

- **地域の医療需要に見合った病床機能に転換し、「オホーツク西紋医療ケアネットワーク」内外の連携強化による紹介患者や救急患者を確保**することで、患者確保及び診療単価の向上を目指す。
- コスト削減では節水システムを導入し、院内LED化を検討中。また、**医薬品及び材料価格交渉を積極的に実施**。

経営指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
常勤医師数	人	2	1	2	2	2	2	2
看護師数	人	21	23	21	23	23	23	23
経常収支比率	%	104.5	103.4	96.1	85.0	87.5	97.9	100.0
修正医業収支比率	%	37.1	31.5	30.0	31.1	31.7	44.7	48.6
病床稼働率	%	41.2	33.6	35.5	35.6	39.1	68.0	80.0
入院診療単価	円	28,507	25,345	24,654	25,345	25,345	32,000	32,000
一般会計繰入金	千円	450,000	480,000	448,000	370,000	391,014	394,835	388,293
(うち雄武町負担)	千円	287,231	320,512	293,743	217,769	238,783	242,604	236,062
(うち実質負担分)	千円	271,003	308,094	281,863	203,266	224,399	228,062	221,240

※ 常勤医師数は各年度期末、看護師数は各年度期首の人数。 ※ 看護師数は、正規職員と会計年度任用職員を含む。
※ 一般会計繰入金のうち、雄武町負担分は、一般会計繰入金から交付税措置を除外した金額。 ※ 経営指標は税込。
※ 一般会計繰入金のうち、雄武町の実質負担分は、雄武町負担分から企業債元利償還に係る繰入金金を除外した金額。

(3) 機能分化・連携強化

- 専門医療・高度急性期医療は「オホーツク西紋医療ケアネットワーク」内外での連携を強化。併設老健含む地域の介護施設とは、退院後の入所及び医療的ケアが必要な場合の受入を推進。

(4) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

数値目標(抜粋)	単位	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
①救急患者数	件	412	470	641	500	500	500	500
②在宅復帰率	%	74.8	72.2	69.9	72.5	72.5	72.5	72.5
③紹介件数	件	126	121	107	120	130	150	175
④逆紹介件数	件	104	81	96	108	117	135	158
⑤有休取得率	%	38	38	38	40	40	45	50

※ 紹介件数は、入院患者のうち、他の医療機関・介護施設からの紹介及び転院があった件数(救急車搬送を除く)
※ 逆紹介件数は、退院患者のうち、他の医療機関・介護施設へ転院(通所含む)、入所した件数

(5) 一般会計負担の考え方

- 一般会計負担については、経営の効率化を図ったうえで、**現行基準を踏まえ不採算地区に立地する公立病院として必要な財政支援**を受けていく。

(6) 住民の理解のための取組

- 当院の果たすべき役割、機能を見直す場合は、地域医療構想調整会議において関係者と協議し、当院のHP等において公表。

5 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組

- 院内において感染拡大はさせないという理念の下、新型コロナウイルスが5類感染症へと移行した現在も、職員に対するマスク着用、体調変化の場合は検温を推奨。
- 外来患者に対しては検温、消毒を励行し、風邪症状がある場合はブース対応か車待機を依頼。
- このような取組を継続し、**感染予防を徹底すると共に、周辺の医療機関と連携し、新興感染症対策を強化**していく。

8 経営形態に関する検討

- 現時点で経営形態の見直しを実施することは、コスト面や実現性等を鑑みると困難であるため、今後、検討を継続することとして、本プランの開始段階においては**現状の地方公営企業法「一部適用」による経営形態を維持**。

9 経営強化プランの点検・評価・公表・見直し

- 経営幹部会議等で、計画期間中、概ね年1回以上、経営強化プランの進捗状況を点検・評価し、必要に応じて改定するとともに、HP等で公表。
- 「経営幹部会議」において経営強化プラン全体に係る検討・管理を担い、個別テーマについてはそれぞれ担当部門を定め、計画を推進していく。